

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和6年度学校評価 結果

学校名	鹿島市立鹿島小学校	達成度(評価)
A : 十分達成できている	B : おおむね達成できている	C : やや不十分である
D : 不十分である		
1 前年度 評価結果の概要	①学力の向上・・・つながりを意識した授業の共通実践は学習意欲の向上に結びついている。さらに表現力の育成を図るとともに、読書の推進・家庭学習の充実を図る。 ②豊かな心の育成・・・毎月のアンケートにより、些細なことでも先生に伝える体制が整ってきた。今後も、自己肯定感、自己有用感の向上を図っていく。 ③健やかな体作り・・・生活習慣を振り返ることにより、よりよい生活につなげることができている。今後は、食事の内容や運動の習慣化に向けた取組も充実させていく。 ④働き方改革・・・業務改善に対する意識は向上してきている。さらに、職場環境の改善に取り組むと共に、個々のスキルアップの機会も作っていく。	
2 学校教育目標	いのち輝く 鹿島っ子の育成	
3 本年度の重点目標	①学力の向上・・・主体的で対話的な授業づくり 家庭学習の充実 学校図書館を活用した読書活動の推進 ②豊かな心の育成・・・人権教育の充実及びいじめ防止対策 特別支援教育の充実 ③健やかな体作り・・・体力向上への取り組みを実施したスポーツチャレンジへの取組 食育の充実 安全教育(交通・災害)の充実 ④働き方改革・・・子どもに向かう時間及び教材研究の時間の確保 時間外在校等時間の上限の遵守	

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価	主な担当者
---------------	------	--------	-------

(1)共通評価項目			中間評価	最終評価	学校関係者評価	主な担当者	
評価項目	重点取組	具体的な取組	中間評価	最終評価	学校関係者評価	主な担当者	
●学力の向上	○主体的で対話的な授業づくり ○読書活動の推進	○授業の内容はよくわかると回答した児童95%★ ○学年で決めた目標冊数の本を読んでいる児童90%	A ・話し合ったり、説明したりする活動を仕組む。 ・図書室の本を活用した授業を仕組み、読書への関心を高める。	A ・7月に授業づくりのステップ1・2・3のチェックを行った。「表現」は、平均1.9ポイントであったので、引き続き、声かけを行っていく。 ・図書委員会を中心に「おすすめの本」達成者をマイスターとして借りられる本を3冊に増やしたり、放送で呼びかけたりしている。いろいろな本を読む意識が少しずつ高まって来たように感じる。	A ・授業がよくわかると答えた児童は、前期の86.1%から後期87.3%と向上したが、表現の方法が定着するには至らなかったため、目標には届かなかった。 ・貸し出し冊数競争や図書委員会の取り組みで図書室に向かうことが増えた。学年で決めた目標冊数の本を読んでいる児童も90.2%となった。	○家読の推進を継続し、参観日などに親子で図書室入室で本を借りる試みを提案。 ○授業がよくわかると答えが向上している。先生方の指導がよいと思う。 ○クラスにより、また学年により差があり対策が必要ではないだろうか。	
●心の教育	○学習規律及び家庭学習の充実	○学校では落ち込んでいる勉強することができている児童90%★ ○1日に決まった時間学習している児童85%★	B ・「鹿島の学び10ヶ条」から、各月の目標を設定し、月末に振り返りを行う。 ・「生活・家庭学習パワーアップ週間」を設け、家庭への啓発を図る。	B ・月末は、立候補の放送後に各月の振り返りを行い、鹿島の学び10ヶ条を意識しながら学習に取り組むことができている。 ・5月に「鹿島の学び頑張ろう週間」に取り組み、家庭学習の充実を図っているが、家庭学習の自安時間に達成できていない子も多い。今後も家庭への啓発を続けていく必要がある。	B ・鹿島の学び10ヶ条の中からひと月ごとにめててを決めて取り組んだことで、学習規律が定着したため、落ち込んでいる勉強する環境が整った。 ・「鹿島の学び頑張ろう週間」の回数を3回から2回に減らしたところ、家庭学習の意義を伝え、家庭と連携した取り組みを継続していくことが必要である。	○家庭学習も親がない低学年は家庭環境によっては厳しい部分も多いと思う。 ○家庭との連携の努力を感じられる。日々の積み重ねの取り組みで家庭の意識にも変化を期待。一緒に学ぶ家族でありたい。	
●健康・体づくり	○児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○相手の気持ちを考え行動できだと回答した児童85%	B ・年間を通した「あったかの木」や「やさしさの木」の取り組み。 ・掲示板を利用した道徳の実践の紹介などで道徳教育の充実を図る。	A ・昨年より各学級掲示の仕方を工夫したり放送で紹介したり取り組みの広がりが見られるが、日頃の言動が気になる児童が見受けられる。 ・掲示板を利用した道徳実践の紹介だけでなく、ふれあい道徳で親子と一緒に人権について考えることができた。	A ・相手の気持ちを考え行動できだと回答した児童が前後期共に90%を超える結果だった。 ・日頃の様子や毎月のアンケートから気になる児童については職員で共通理解を図り、個別の指導を継続して行い改善されつつある。 ・道徳の授業と実践紹介を計画通りに行い、全学級で人権についての学習を実施することができる。	○職員間での共通理解や指導、寄り添い、見守りが「支える、支えられる、支え合い」につながると思う。 ○この取り組みも継続してもらいたい。また、年上の方への対応なども併せて実施する。	
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	○いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○学校が楽しいと回答した児童85%	A ・月1回のいじめアンケートの実施及び実態把握と指導	A ・毎月いじめアンケートを行っていることで、いじめ事案の早期発見・早期対応・早期解決ができている。	A ・学校評議会アンケートで、「学校が楽しい」と回答した児童が1回目84.2%から2回目90.4%と大きく向上した。年間通じたじめにに対する丁寧な早期対応・早期解決の成果と思われる。	○どんな気持ちかな?どうしたかったのか、どうすればよかった?など自問自答に寄り添って指導を継続。 ○中高年のいじめの状況を聞くとSNSを使ったり、人間関係が複雑であったり根深かったりする。小学生の間にいじめをしない、させない教育の必要性を感じています。	
●地域・保護者と学校の連携・協働	○児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童80%以上 ●「将来の夢や目標を持つている」について肯定的な回答をした児童80%以上	A ・児童個人に良さを伝えたり、みんなに認めてくれていると思うと回答した児童80%以上 ・将来の夢や目標を持つていると答えた児童は83.3%だった。今後も、毎日自分の決めた「一事實行」を実践することで、粘り強く取り組む姿勢を身に付けさせていく。	A ・先生に良い所を認められていると感じている児童が89.9%と高く、日頃の声かけや励ましが効果的に行われ、信頼関係が構築されているのがわかる。今後も全職員で、自己肯定感の高まるような対応を心がけていく。 ・将来的夢や目標を持つていると答えた児童は80.0%でした。今後も、毎日自分の決めた「一事實行」を実践することで、粘り強く取り組む姿勢を身に付けさせていく。	A ・先生に良い所を認められていると感じている児童が89.3%で、前回よりも0.6%下がったものの、高い結果だった。児童の多くは教師との関係が良好で、安心して学校生活を送ることができた。残り1割の児童への共感的な声かけや励ましが必要。 ・将来的夢や目標を持つていると答えた児童は90.0%で、前回よりも6.7%上昇した。今後も、児童の将来的夢にもつながる「一事實行」の実践を奨励していく。	○児童と教師の関係が良好であることがとてもよいことです。不安がなく安心して落ち込んだ学校生活が送れていることはすべてにおいてよい結果をもたらしていると思う。 ○高学年になれば、無邪気な夢や目標は持てなくなるのは当然でアンケート結果に問題はない。 前回の結果が下がっていたことから児童と教師との関係をさらに密になる努力を期待する。 ○将来的夢を持つようになっている子どもが増えていることはいいことだ。ただ、親の認識とのギャップが大きいと感じる。	
●地域の方と一緒に学習に興味があると回答した児童80%	●地域の方と一緒に学習に興味があると回答した児童80%	●地域の方と一緒に学習に興味があると回答した児童80%	A ・各学年1単元以上、地域人材を生かした、体験学習や環境学習等を行う。	A ・多くの学年で地域の方と一緒に学習する活動を仕組んでおり、地域の方との学習は楽しいと86.4%の児童が回答した。	A ・1年生から6年生まで全ての学年で、地域学習、地域の方と一緒に学習する時間を教科との関連の中で位置づけ実施することができた。86.6%の児童が地域学習を楽しいと感じている。	○地域の方々は、いろいろな引き出しがあり、智恵もある。交流の場を広げてもらいたい。 ○多くの地域の方と関わることは地域を愛することにつながり地元に貢献できる人を増やすことになると思う	
●「運動習慣の改善や定着化」 ●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	○スポーツチャレンジやランニングweekの取り組みが、体力づくりに役立っていると回答した児童85% ○「健康に良い食事をしている」児童90%以上★	●「運動習慣の改善や定着化」 ●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	A ・スポーツチャレンジやランニングweekの取り組みでは、休み時間やひまわりタイム、体育科での体づくり運動を取り入れる。 ・ひまわりタイムを活用し、全校で取り組み、表彰を行う。 ・栄養教諭と連携し、全学年で食育授業を実施する。	A ・スポーツチャレンジ(ドッジボールラリーほか学級の取組)では、児童の88%が体力づくりに役立っていると回答している。体育委員会を中心取り組みを進めているが、その取り組みに聞いては、学級によってまちまちなので、学校全体で取り組んでいくよう取組を広げていく必要がある。 ・「健康に良い食事をしている」と答えた児童は、全校で94%でほぼ変わらないが、「よくあてはまる」を選んだ児童は、6ポイント上昇している。各学級での指導や養護教諭、給食センターの食育授業のおかげで残業についても少しずつ改善されてきている。	A ・スポーツチャレンジやランニングウイークは、92%が体力づくりに役立つと回答している。長縄とランニングなど学校行事と組み合わせることで、取り組みが向上了している。 ・「健康に良い食事をしている」と答えた児童は、全校で94%でほぼ変わらないが、「よくあてはまる」を選んだ児童は、6ポイント上昇している。 ・「健康に良い食事をしている」と答えた児童は、全校で94%でほぼ変わらないが、「よくあてはまる」を選んだ児童は、6ポイント上昇している。 ・放課後の運動時間の取り組みや給食の改善など残業に対する意欲の向上につながった。	○運動、食の取り組み、指導が行き届いていると感じられる。朝食を摂らずに登校している児童の割合も見送れない。 ○特に朝食の必要性、野菜と肉のバランス等について話、また、実習でお願いします。 ○体力の向上へ時間を通して運動の実施を。 ○スポーツクラブに所属する子ども以外は、学校での運動以外に運動の機会がないようです。コロナ後、公園や広場で遊ぶ子どもが減ったので学校での体力づくりはとても大切だと思う。	
●よりよい生活习惯の形成	○あいさつ、廊下歩行、無言掃除ができると回答した児童85%	●よりよい生活习惯の形成	A ・年2回の「生活・家庭学習パワーアップ週間」アンケートの実施。 ・生活委員会を活用した生活目標の設定。 ・掲示板の活用や全校朝会を生かした、取り組み児童の紹介。 ・連絡会を活用した指導事項の共通理解。	A ・「あいさつ、廊下歩行、無言掃除の3つの目標を守ることができた」と答えた児童は全校で89%であった。あいさつに関しては毎月の生活目標に掲げ、定期的に指導を行ったり、生活委員会の取り組みにあいさつ名人を掲示したりして、少しずつだが児童の意識が高まっている。	A ・「3つの目標を守ることができた」と答えた児童は全校で90%と前回を上回った。全校集会ではスライドを作成して生活目標に対する具体的な方策を視覚的に提示したり、生活委員会を活用し、児童の視点から指導内容を考え、あいさつチェック習慣を設定したりして、廊下歩行の掲示物を作成したりしたこと、校内生活をよりよしとする児童の意識を向上させることができた。	○元気に大きな声で挨拶をする子、はすかしそうに挨拶する子、小さな声で下を向いて挨拶する子色々ですが、みんなが挨拶をしてくれていると思う。 ○朝の登校時の挨拶で声がよく出るようになった。でも、まだまだ少ないと。逆に帰りは通りすがりに挨拶すると元気な声で返ってくる。	
●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	A ・定期退勤日の設定(毎週金曜日)及び確実な実施(定期退勤ボードの活用)。 ・アーケード等の集約、デジタル化・放課後の時間確保。	A ・定期退勤日の設定により、多くの職員は退勤時間が早くなり、ワークライフバランスの意識が高まっている。	A ・放課後の時間確保を行ったこと、定期退勤日の設定、声かけ等により退勤時間は早くなっている。さらに、事務の効率化を進めることで負担の軽減を図っている。	○働き方改革は時間のことばかりではなく業務内容の見直しを熟議して職員のゆとりを大切に確保してほしい。 ○個に応じた指導の工夫96%はばらしい。時間のゆとりを得ることで個に注がれる指導に期待大。	
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●児童と向き合う時間や教材研究の時間の確保に向けた業務の効率化	●児童と向き合う時間や教材研究の時間の確保に向けた業務の効率化	A ・デジタルドリルの活用について、学級差があり、促進を図る。同時に、デジタル掲示板の活用推進 ・教材、資料等の共有化	A ・デジタルドリルの活用について、学級差があり、促進を図る。同時に、デジタルデータの共有ができるようにクラウドのフォルダ整理が必要である。	A ・デジタルデータやドリルの共有による学習指導をよりよく進めながら本当に大切にするべき指導を見逃さないようにしてほしい。	○デジタルデータやドリルの共有による学習指導をよりよく進めながら本当に大切にするべき指導を見逃さないようにしてほしい。	
●特別支援教育の充実	●個に応じた指導、支援の充実	●個に応じた指導、支援の充実	A ・的確な児童把握に基づき、配慮を必要とする児童への指導を工夫できた職員90%	A ・5月に全職員で個別の教育支援計画の意義などについて研修会を持ち、必要な児童全てにおいて作成ができた。 ・SCの見立てや助言に基づいて個々の児童に必要な支援を実施することができた。	A ・配慮を必要とする児童への指導を工夫できたと答えた職員は約96%で、個別の教育支援計画・指導計画に基づいて個に応じた支援や配慮が学校全体で実践できたと言える。	○配慮の必要な児童への対応がとても良くなっています。 ○支援、配慮が必要な児童に対して手厚くしていただきたい	
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目			中間評価	最終評価	学校関係者評価	主な担当者	
評価項目	重点取組内容	具体的な取組	中間評価	最終評価	学校関係者評価	主な担当者	
○安心・安全な学校づくり	○危機管理意識の高揚	○災害や事故から命を守るために行動について理解することができたと回答した児童90%	A ・年2回の避難訓練等における安全指導の強化(対児童・対職員)。 ・集団登校の各班の自己評価及び定期的な集団下校の実施。	A ・5月に不審者対応、10月に地震・火災時の避難訓練を実施した。外部機関による指導、講話を取り入れ、効果的な安全指導を行なうことができた。	A ・「命を守るために行動を知っている」と答えた児童が94%から96%と向上した。月1回登校の自己評価を行い、校内放送等で結果やがんばりを公表したり、地区児童会の際に5年生が作成した交通安全マップを紹介したりしたこと、児童一人ひとりの危機意識が高まった。	○危機管理タイムを設けて、短時間でもよいから繰り返し訓練することで危機管理に対処できるようになってほしい。 ○次回、できれば避難訓練終了後、5・6年生にビニール袋でご飯の炊き方の実習もよいのでは。 ○集団登校に関しては、今後、保護者も主体的に関わっていく必要がある。学校と地域と連携を取る。	

5 総合評価・次年度への展望	●学力向上について:話し合ったり、説明したりする活動の継続。読書活動の工夫と家庭と連携した家庭学習の啓発 ●心の教育について:毎月のいじめ・一事実行アンケートによる実態把握と個への関わり。地域学習の充実 ●健康・体づくりについて:学校行事と関連させた運動の習慣化と食育の推進 ●業務改善・働き方改革:業務のデジタル化の推進。子どもと向き合う時間の確保 ●特別支援教育の充実:個の支援計画、指導計画に基づく配慮や支援の継続。関係機関との連携推進。	
----------------	--	--